

平成 15年 1月 8日

関係機関長 様

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察注意報第 4号を送付します。

平成 14年度病虫害発生予察注意報第 4号

平成 15年 1月 8日

高知県病虫害防除所

病虫害名 うどんこ病 (Oidiopsis sicula Scalia)

- 1.対象作物 促成ピーマン、シシトウ
- 2.発生地域 県内全域
- 3.発生時期 10月以降
- 4.発生程度 多

5.注意報発令の根拠

- 1) 10月 ~ 12月に行った現地ほ場における促成ピーマン、シシトウ病虫害発生予察巡回調査では、県内全域においてうどんこ病の発生面積率、発病度とも平年に比べかなり高く、発生が多かった昨年と比較しても同等かそれ以上になっている。また、現在も県内全域でうどんこ病の病勢は伸展傾向にある(第 1表)。
- 2) 今後 1ヶ月の長期予報(平成 15年 1月 3日、高松地方气象台発表)では降水量、日照時間とも平年並と予想されている(第 2表)。従って、今後うどんこ病の病勢が衰える要因は少ないと思われる。

6.防除対策

- 1) ピーマン、シシトウのうどんこ病菌は他の作物のうどんこ病菌とは異なり 内部寄生性のため病徴が不明瞭で発生初期に見つけにくく同時に薬剤の効果が見われにくいので、育苗期から発生に注意し本ぼへの病苗の持込をしないなど、早期発見、早期防除に努めることが防除の基本である。
- 2) 本病原菌の発病適温は 15~ 28 、最適温度は 25 で、やや乾燥した条件が発病に適する。この環境はハウスピーマンの栽培環境ともほぼ一致し、特に 3月以降多発する傾向にあるため、その前に防除を徹底する。
- 3) 潜伏期間は 2週間以上あると思われるので、発生がみられたら 7~ 10日間隔で 2~ 3回薬剤防除を行う。ただし、同一薬剤の連用は耐性菌を生じるおそれがあるので注意する。
- 4) 発生がみられない場所も散布ムラがないよう ていねいに散布する。

第 1表 高知県内における促成ピーマン、シシトウうどんこ病の発生面積率 (%)

		10月	11月	12月	10～12月平均
東 部	本年	0(0.0)	70(0.5)	80(9.0)	50(3.2)
	昨年	30(0.2)	70(3.0)	100(6.1)	67(3.1)
	平年	3(0.0)	12(0.6)	29(0.6)	15(0.4)
中央部	本年	70(2.5)	70(13.5)	80(12.7)	73(9.6)
	昨年	30(1.5)	50(5.2)	50(10.3)	43(5.7)
	平年	9(0.3)	27(1.2)	39(1.9)	25(1.1)
中西部	本年	25(0.8)	88(6.1)	88(7.9)	67(4.9)
	昨年	25(1.9)	88(7.1)	88(7.8)	67(5.6)
	平年	10(2.5)	29(3.4)	40(3.3)	26(3.1)
県内平均	本年	32(1.1)	76(6.7)	83(9.9)	63(5.9)
	昨年	28(1.2)	69(5.1)	79(8.1)	59(4.8)
	平年	7(0.9)	23(1.7)	36(1.9)	22(1.5)

注) 本年 :平成 14年、昨年 :平成 13年、平年 :過去 10年間 (平成 4年～平成 13年)の平均値
()内は発病度

第 2表 1ヶ月の気象予報 (1月 4日から2月 3日までの天候見通し)

要素	地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気 温		30%	50%	20%
降水量	四国地方	30%	50%	20%
日照時間		20%	50%	30%

注)平成 15年 1月 3日に高松气象台より発表。

参考 :ピーマンうどんこ病の病徴



葉表 :黄化、褐変が見られるが、うどんこ病菌の胞子などは見えず見逃しやすい。



葉裏 :表面にうどんこ状の分生子がたくさん見られる。病徴が進むとやがて落葉し、株が衰弱する。